

独断

注目商品

REVIEW

34馬力から使える!? 水田用丘曳きプラウの新時代

ボトムプラウ

5 水田用丘曳きリバーシブルプラウ

■お問い合わせ

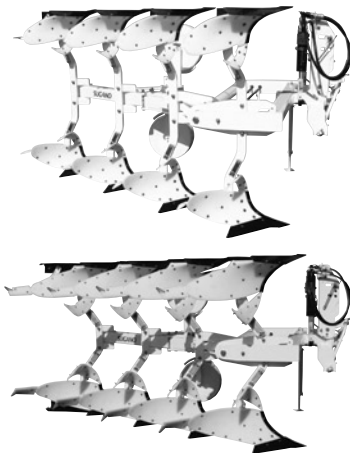
スガノ農機株式会社

〒3000405

茨城県稲敷郡美浦村間野字天神台300

TEL...029-8860031

FAX...029-8860030



メーカー希望小売価格:

上: CRLY124 (一般水田用) 1,270,500円 (税込)

下: CRPLY124 (粘質土壌用) 1,491,000円 (税込)

スガノ農機(株)が水田用丘曳きリバーシブルプラウの新しいモデルを発売した。これまで同社の丘曳き用のラインナップは、畑用で120馬力以上、水田用で50馬力以上といずれも高馬力トラクタがなければできないというイメージを抱かせてきた。そこに、40馬力以下のトラクターに対応した12インチ4連プラウが登場したという点は興味深い。

先日、取材先の旭川近隣で、水田車輪をつけた作業風景に出会った。近年見かける機会が少なくなっているが、その理由には土壤改良が進んだことに加えて、セミクローラ、フルクローラトラクタが普及していることが挙げられよう。

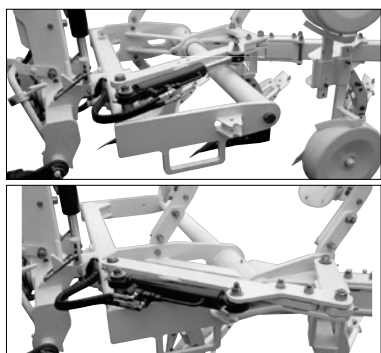
水田作業向けにこそ 丘曳き用のニーズがある

だが、クローラタイプに転向すれば、牽引力を利用した作業の効率化が図れる一方、一般的なプラウの溝曳き作業には適さない。

溝引きプラウといえは、前工程でできた溝に片側のホイールを落と

し、車体を傾けて作業を行なう。隣りのラインとの間隔が一定になり、安定した作業幅を得やすいのはホイールトラクタ特有の利点である。だが、クローラトラクタの場合、クローラを溝に落として作業すると痛めてしまう。また、溝曳き作業時にホイールが落ちる溝にはトラクタの全自重がかかるので、土が締め固まって硬盤層を形成してしまうのではないかと懸念もあるようだ。

これらを解決する技術が丘曳きプラウである。トラクターが水平に作業しながら耕起前の圃場を走行するため、直進性に優れたフルクローラやセミクローラトラクタによる水田後や麦後の耕起作業に適する。さらに車体が傾かないので、溝曳き作業に比べて運転しやすく、オペレーターへの負担は削減されるのだ。



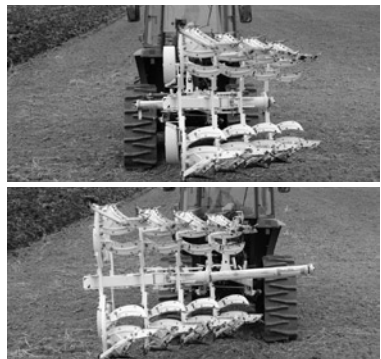
新機構のスライドリンク方式。油圧取り出し(3/8メスカプラ2個)が必要。

幅の作業を4~6km/hでこなす。水田用プラウの特徴として、乾土効果を狙う目的で反転した土塊に亀裂をいれるため、ボトムの後端にカットナイフが付いている。

走行位置が耕起後から30cm オフセット利用で安心走行

油圧オフセットは、機体がコンパクトになった分、スライドリンク方式でより長いストロークでダイナミックに動く機構に進化している。車幅が1700mmなら、耕起跡から30cm離れた走行位置で安心できる。

ホイールトラクタをお持ちの方は、溝曳き作業にも対応できるので、利用場面は広がるはずだ。圃場の土質に合わせて、一般水田用と粘質土壌用の2種類から選べる。今秋の水田後から試してみたいかがだろうか。(加藤祐子)



オフセット量は最大105cm。油圧オフセット(オプション)でより便利に。